



200.0/hf で吸入させた。

反応器の出口ガスを採取、分析し、燃焼の活性を求めたところ表1の通りであつた。

#### 実験例2

日清化学工業シリカ-アルミナ (863ノール) 担体200μと、0.1%の酸化白金を含む200μの水素担体中で普通に16時間燃焼させた。次いで実験例1と同様の方法で処理し、0.1%重量白金担体シリカ-アルミナ担体と交換した。

上記の担体200μを用いた燃焼の方法にて、燃焼の活性を求めたところ表1の通りであつた。

#### 実験例3

住友化学工業アルミナ (KHA-44) 1.5μと、0.1%の酸化白金を用い、実験例1と同様の方法で処理し、0.1%重量白金担体シリカ-アルミナ担体と交換した。

上記の担体1.5μを用いた燃焼に充てしめ、0.0000h<sup>-1</sup>とした。2700ppmのNH<sub>3</sub>

を含有する空気を反応器のガス入口部より流送し、200.0/hf で吸入させた。その結果は表1の通りであつた。

#### 実験例4

日清化学工業シリカ (E-60FR) 担体200μと、0.1%の酸化白金を含む200μの水素担体中で普通に16時間燃焼させた。次いで実験例1と同様の方法で処理し、0.1%重量白金担体シリカ-アルミナ担体と交換した。

#### 実験例5

担体として日清化学工業シリカ-アルミナ (H63ノール) 200μを用いた燃焼の方法にて、燃焼の活性を求めたところ表1の通りであつた。

#### 実験例6

エンゲルハルト社の0.1%重量多ルテニウム担体シリカ-アルミナ担体を用い、実験例1と同様の方法で処理し、燃焼の活性を求めたところ表1の通りであつた。

#### 実験例7

実験例1で用いた担体200μと、0.07

の酸化白金と0.062%の酸化ルテニウムを含む200μの水素担体中で普通に16時間燃焼させた。実験例1と同様の方法で、0.1%白金と0.1%ルテニウム担体シリカ-アルミナ担体と交換した。

上記の担体を用いた燃焼と同様の方法で、燃焼の活性を求めたところ表1の通りであつた。

特開 昭50-53286(4)

実験例	燃焼 / 担体	NH <sub>3</sub> (入口) (ppm)	反応温度 (°C)	出口ガス組成 (ppm)			NH <sub>3</sub> 分解率 (%)
				NH <sub>3</sub>	NO <sub>x</sub>	H <sub>2</sub> O	
1	0.1% Pt/α-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	3000	210	163	3	400	94.4
			220	34	6	490	96.7
			230	6	8	590	99.3
2	0.1% Pt/β-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (α-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	3000	210	63	15	390	97.6
			240	34	20	230	98.2
3	0.1% Pt/γ-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	2700	220	149	16	610	93.9
			230	69	33	370	97.0
4	0.1% Pt/SiO <sub>2</sub>	3000	230	214	24	560	92.1
			240	70	30	370	96.7
			250	20	41	660	98.0
5	0.1% Pt/SiO <sub>2</sub> -Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (高 Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	2700	240	136	46	360	93.3
			250	70	70	440	93.3
6	0.1% Ru/γ-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	2700	184	121	33	40	94.3
			203	17	13	60	96.2
7	0.2% Pt / γ-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	2700	232	60	18	410	97.1

6 前記以外の代理人は、

#### (1) 代理人

住所 住友化学工業株式会社の二丁115番2号 三井化学工業株式会社

氏名 (代表) 住友 氏 谷 川

住所 住友 氏 谷 川

氏名 (代表) 住友 氏 谷 川

住所 住友 氏 谷 川

氏名 (代表) 住友 氏 谷 川

住所 住友 氏 谷 川

3 字別

8 字別